

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200139		
法人名	社会福祉法人 長福会		
事業所名	グループホームデイパーク大府 1F		
所在地	愛知県大府市横根町箕手94番3		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2394200139-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、例年については、運営法人全体で地域の方との交流が行われており、ホームからも利用者に参加する取り組みが行われている。現状、利用者の外出についても困難な状況が続いているが、職員間で検討を行いながら、関連事業所の敷地内にある花壇の手入れをホームの利用者を行う取り組みが始められており、利用者の外出の機会につなげている。関連事業所とは非常災害時に関する協力体制もつくられており、職員間での連携につなげている。また、今年度は開設以来の管理者が法人内で異動したことで新たな管理者が着任しているが、現管理者も開設時からリーダーを務めていることで、利用者や家族に対して今までと変わらない支援が行われていることで、利用者や家族の安心感にもつながっている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年2月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関の見えるところに事業所理念が掲示されており、会議などで利用者主体であるか話し合いが出来ている。機関紙や散歩等での挨拶で法人、地域の方と繋がりを続けている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えており、今年度より管理者が交代しているが、以前と変わらない方針で支援を継続している。また、運営法人全体で地域の方との交流を行う方針が掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で地域の方が参加する行事等は行っていないが、散歩や玄関先の花や野菜の水やりで近くを通る地域の方に挨拶を積極的に行っている。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年については、地域の方との交流については、運営法人全体で行われており、ホームからも利用者に参加する等の交流が行われている。また、ホームでも独自の交流が行われている。	例年は、運営法人の関連事業所を含めて地域の方との交流が行われていることもあるため、今後の状況をみながら、徐々に交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	機関紙の作成をして事業所の様子を法人内で閲覧しており、今後は地域へ配布が出来るように計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は書面にて運営推進会議を行い、頂いた意見を会議等で報告している。	運営推進会議については、書面による実施が続いており、関係者には書面でホームの現状や取り組み等に関する報告が行われている。また、複数の家族にも会議に関する書面の送付を行い、関係が途切れないような取り組みが行われている。	感染症問題が続いていることで、書面による開催が長期化していることもあるため、今後の会議の再開に向けた検討にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定更新の際には担当が出勤の場合、調査員に利用者の生活の様子を補助し伝えていた。	広域連合や市担当部署との交流については、運営法人を通じても行われており、ホームの運営につながるような取り組みが行われている。また、広域連合等の研修会等についても、運営法人とも連携しながら参加の機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会により、問題や疑問があれば話し合い、報告が出来ている。玄関は自由に出入りできるようになっており、利用者の行動を観察、分析してから声を掛けるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等に合わせた職員間での連携した支援に取り組んでいる。また、身体拘束に関する定期的な委員会の開催や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会や勉強会があり、虐待について学んでいる。身体の様子や声掛けについて確認、会議で話し合いの場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業を学ぶ機会はありません。現在、後見人を利用している方もいるが、主に管理者が連絡を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に管理者が契約関係を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者のご家族から意見を頂戴するアンケートを実施。管理者から職員へ伝達し、会議等で話し合っている。利用者の情報を家族等から教えて頂き、レクなどに活かしている。	現状、家族との交流が困難になっているが、感染症対策を行いながら面会の機会をつくる取り組みが行われている。家族からの要望等には管理者が対応し、運営法人に報告している。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が常に職員の意見などを聞ける時間を作って下さり、反映されることもある。	毎月のホーム全体及びユニット毎の会議が行われており、職員間で意見交換を行い、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による定期的な職員面談の機会がつけられており、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々でケアの向上ができるように環境整備は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	e-ラーニングなどの動画研修を実施することで、コロナ渦でも学習の場がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	主に管理者が行なっているが、外部からの研修も開催しており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に本人の状況把握や本人と話し合う時間を設け、安心に繋がる関係作りをしている。ご家族からも本人の情報について伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	来所時には挨拶や日中の様子の報告、月に一度お手紙を出し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主に管理者がサービス導入前に本人、家族の心配事を聞き、ホームとして出来る事を相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事を引き出し、一緒に生活の場を作るように努めている。利用者からも「大丈夫？手伝おうか」と声を掛けて下さり、されるじゃない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に一度のお手紙で本人の様子の報告と情報の共有やリモート面会、電話等を行って関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ過で外出機会は少ないが、なじみの地域に散歩やドライブをしたり、リモート面会や電話をして繋がりを続けていけるように努めている。	外部の方との交流が困難であるが、利用者の中には電話等も活用しながら交流を継続する等、現状で可能な範囲で馴染みの方との関係継続が行われている。また、身内の方の葬儀に出かける等、感染症対策をお願いしながら家族との外出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性や各利用者同士の関わりを職員で共有し、レクや日常、散歩等で話しやすい環境づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	主に管理者が行なっているが、転居先へ生活の様子や注意点などを報告している。同法人内で転居する方も多く、関係が途切れないことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と毎日の生活の中で声掛けや会話から好きな事や思い、本人の過ごしやすくなる支援に努め、職員で話し合うことをしている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスの際には全員の方の検討が行われており、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅で使用していた家具や飾りの設置、在宅で生活していた様子を本人、家族から情報を集め、共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の過ごし方を把握し、いつもと違う変化があれば申し送り等で共有、その日のリズムで過ごして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を定期的に見直し、本人の意思を最優先としたケア、家族の思いを把握したケアを意識して行っている。	介護計画の見直しについては、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも細かなチェックが必要な方には記録用紙を追加する等、状態変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	出勤時に確認や体調変化があった場合は赤ペン、普段と違う様子(不穏)は青ペンで記入し、見やすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	月一度の会議で話し合いや予定外のWeb面会もその都度対応したり、外出が難しい現在の状況の中、移動販売車が来てくれるようになった為、買い物支援が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で外出に制限があるが、近くの遊歩道へ散歩へ行き、四季の変化を感じたり、移動販売車の利用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	管理者が本人、家族と相談し今まで通っていた病院がかかりつけになることや適切なかかりつけ医の選択をしている。	ホームでは、複数の医療機関との連携が行われており、医療面での支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もいる。受診については家族による対応を基本としながら、状況等に合わせたホームでの対応も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者に変化があった場合は相談している。不在時は申し送りや本部の看護師の応援を呼ぶ連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は主に管理者が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	まだ重度化や終末期に向けた実践的な取り組みは行っていない。	利用者の中には、身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、ホームでも支援可能な取り組みが行われているが、関連事業所に特養があることで、医療機関を含めた次の生活場所への案内が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所に緊急時の連絡先のマニュアルがあり、随時更新や周知を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行い、消防署への連絡の仕方など、発生した事故によってどう避難するかを検討し、訓練している。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。運営法人の関連事業所と連携した地域の方との取り組みや備蓄品の確保が行われているが、一部をホームでも確保する取り組みが行われている。	感染症問題が長期化する中で、関連事業所や地域の方との交流が困難な状況が続いているため、今後の状況をみながら徐々にホームの取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けに注意しながら上下関係を作らない声掛けをするケアを行っている。	運営法人の基本理念には、職員による利用者への対応に関する内容も掲げられており、日常の支援を通じて職員の意識向上にもつなげている。また、職員の接遇にもつながる研修を実施し、職員の振り返りにつなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分の意思で選択できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは決めてはあるが、本人の意思を確認しながら、個々のペースに合わせた生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧品等の希望がある方は希望を聞き支援したり、よく着ている服の把握やコーディネートで悩んでいる時は相談にのっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ渦で利用者と一緒に調理、食事をすることはできないが、持ち帰りやご飯をパンに置き換える日を作るなど工夫に努めている。禁食や趣向で食事摂取が少ない時は代替食を栄養士に連絡している。	おかず類については、関連事業所の厨房から提供しているが、ご飯と汁物はホームで用意している。利用者もできることに参加する機会もつくっている。厨房とも連携したソフト食を提供する等、利用者の身体状態に合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の体重、既往歴を加味しながら食事量の調整や水分摂取を促し、記録に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食、本人の行きたいタイミングで口腔ケアを促したり、磨き残しがないかなど観察をして、見守りか一部介助か検討し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	現在おむつを利用している方はいない。リハビリやパットについては排泄状況をアセスメントし声掛けや見守りに対応するよう努めている。	利用者の状態にも合わせて、職員間で情報交換を行いながら一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考え、利用者の中には職員2名での支援でトイレで排泄を行っている。また、看護師との排泄に関する連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の利用者に合うように体操や散歩などを行い、水分を摂れるように工夫や個人で牛乳を購入して毎朝飲むように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	曜日と時間はある程度決めてあるが、その日の本人の体調や希望で変更している。曜日が決めてあることで今日が何曜日かのメリハリがついている。	利用者の状況等にも合わせて週2～3回の入浴が行われており、定期的な入浴につなげている。浴室にリフトの設置が行われており、利用者の身体状態に入浴支援が行われている。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活リズムを把握し、寝やすい時間までTVを見ていたり、起きる時も本人の今のリズムが継続できるように支援している。1日の運動量等も参考にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々のファイルに処方箋の用紙が挟んであり、いつでも確認できるようになっている。薬の疑問点は薬剤師に確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人の趣味や得意な事、好きな物をアセスメントし、雑巾を縫ったり調理をしたり、好きな番組の時は声を掛けてリビングへ促すなど支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ前は喫茶店や買い物に出ていたが今は行えていない。現在は施設の周りで利用者の興味を引くことを見つけながら、散歩を行なっている。	現状、利用者の外出が困難になっているが、ホームでは、利用者と関連事業所内の花壇の手入れに出かける取り組みを行っており、利用者の外出の機会を確保する取り組みが行われている。また、季節に合わせた初詣にも出かける取り組みも行われている。	ホームでは、感染症対策を行いながら、可能な限り利用者の外出の機会を確保する取り組みが行われている。ホームの取り組みを継続しながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には金銭トラブル防止の為管理者が事務所に保管をしているが、移動販売や自動販売機を使いたいときなどは個々のおこづかいを持っていただき支払いをするように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞いや年賀状を出していたり、希望があれば電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じて頂けるような貼り絵やお花、掃除時間以外にも気になったら掃除をして清潔に心掛け、過ごしやすい環境づくりに努めている。	ホーム内は採光が良く、利用者が日中の時間を明るい雰囲気でも過ごすことができる生活環境がつけられている。また、利用者の作品を掲示している他にも、季節等にも合わせた花が届けられており、季節感に配慮する取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々が思い思いに過ごせるように席を検討し、ソファをテレビの見やすい位置に配置してお話しがしやすい環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具やタンスなど自宅で使っていたものを持ち込み、本人や家族と過ごしやすい環境づくりに配慮している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた持ち込みや入居前からの着物等を持ち込んでいる方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室にクローゼットが備え付けられており、持ち込みの少ない方にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人ひとりが自立した生活を営めるように、トイレや照明の表示が必要かなど情報共有を行う。居室の掃除を利用者がしているが、ゴミ箱のゴミだけ捨てに来るなど、出来ることを見極めて支援している。		